

K250.32

1

2a



くいのあゆみ下

文部省

く
に
の
あ
ゆ
み
下

文
部
省

西
和
子
氏

もくろく

第十 明治の維新……………三〇

第七 江戸幕府……………一

一 新政の成り立ち……………三〇

一 江戸の城……………一

二 新しい社會へ……………三二

二 朱印船……………三

三 文化の動き……………三四

三 鎖國……………六

四 立憲の政治……………三五

第八 江戸と大阪……………一〇

第十一 世界と日本……………三九

一 農村と町……………一〇

一 明治の外交……………三九

二 元祿のころ……………一二

二 東洋のもつれ……………四〇

三 學問の道……………一五

三 産業の發達……………四二

第九 幕府の衰亡……………二一

第十二 大正から昭和へ……………四六

一 世界の動き……………二一

一 歐洲大戰と日本……………四六

二 町人の力……………二三

二 太平洋戦争……………四八

三 開國……………二五

第七 江戸幕府

一 江戸の城

徳川家康 徳川家康は三河の人で、はじめは、その附近の國國を治めて、一時は秀吉と戦ひを交へたこともありました。のちに、秀吉に従つて小田原攻めに手がたて、それまで北條氏の領地であつた、關東地方を治めることになり、武藏の江戸に城をかまへました。そのころの江戸は、葦原のつづくきびしい村だつたといふことです。

秀吉がなくなつてから、諸大名の間で、家康の勢力は目だつて強くなつてきました。秀吉の子の秀頼はまだ幼なかつたので、秀頼をまもつて、豊臣家のためにつくさうとする諸大名は、たがひに力をあはせて、家康をうたうとするはかりごとをめぐらしました。そし

て慶長五年（西暦一六〇〇年）の秋に、美濃の關原ではげしい戦ひが行はれました。ほとんど全國の大名が東西兩軍にわかれて戦ひましたが、家康のひきゐる東軍が、つひに西軍をやぶつて勝利をさめました。これを天下分け目の戦ひといひます。

西軍に加つた大名は、みな罰せられ、全國の大名がこのうち家康に従ふことになりました。

秀頼は大名の一人として、大阪城にとどまることをみとめられました。秀頼が成人してのち、豊臣家をおこして、昔の姿にもどさうとする人人は、この城によつて兵をおこしましたが、家康のためにほろばされ、豊臣家は絶えてしまひました。

幕府の政治 徳川家康は、關原の戦ひがうんでから、ほとんど征夷大將軍に任せられて、幕府を江戸に開き

ました。江戸は、このち長くわが國の政治の中心地になりました。

家康は、源頼朝が武家政治をはじめた鎌倉幕府の方針を手本にして、政治を行ひました。かうして三代將軍家光のころまでに、いろいろな制度もでき上り、幕府のもとはしつかりしてきました。

幕府には、將軍のもとに大老・老中・若年寄といふ三つの大事な役がおかれ、老中が主として政治をとり、若年寄がこれをたすけることになつてゐました。さらに、その下に神社や寺院のことをうけもつ寺社奉行、経済の仕事を當る勘定奉行、江戸の町政を取りあつかふ江戸町奉行がおかれました。また諸國の大名や旗本の武士を取りしめるために、大目付や目付の役があり、そのほか京都や大阪など重要な土地にも、それぞれ役人がおかれました。

幕府は、全國のおよそ四分の一におよぶ土地を持つてゐました。政治上、また軍事上、大せつな都市や港

は、大い大名にまかせず、幕府が代官といふ役人をおいて治めてゐました。これを天領といひます。

大名の取りしまり 國にある大名は、幕府のきびしい取りしまりをうけながら、その領地を治めてゐました。幕府の定めた規則に従はない時には、領地を取りあげられたり、けづり取られたりしました。幕府は大名の配置に、とくに工夫をこらしました。徳川氏の一族と、もと家康の部下であつた大名は、おもに關東・近畿・東海道その他の重要な地方におき、はじめは徳川氏と肩をならべてゐて、のちになつて従ふやうになつた大名は、なるべく遠い不便な地方におきました。また大名がたがひにれんらくをとつて、幕府にそむいたりすることのないやうに、その領地を入りくませたり、天領をその間においたりしました。

参勤交代の制度も、また大名を取りしめる方法でした。この参勤交代といふのは、すべての大名が、やしきを江戸において、妻や子をここにとどめ、一年は國身分にあるものとして、思ふままの力をふるふことができました。農業が、最も大事な産業と考へられてゐましたので、農民は、武士につぐものとされてゐたのです。

幕府の力はきばめて強く、そのおきてや取りしまりはきびしかつたので、世の中すべてのことに、先例やならばしが重んぜられ、新しい計画をたてたり、進んだ研究をしたりすることが、喜ばれないやうになりました。

二 朱印船

士農工商 幕府は、全國の大名を取りしめるばかりでなく、ひろく、一般の人民にむかつて、いろいろなこまかいおきてをつくつて、自由にあふるまふことのできないやうにしました。士・農・工・商といふ、四つの身分が、はつきり定められ、武士は、一だんと高い

世界のやうす 徳川家康が江戸に幕府を開いたころ世界のやうすは、かなり変つてきてゐました。ヨーロッパで、これまで大きな勢力をふるつてゐたイスパニヤとポルトガルがやうやくおとろへ、これに代つてイギリスとオランダとが盛んになつてきました。オランダは、もとイスパニヤの領地でしたが、新しく独立し

たのです。

イギリスとオランダとは、早くから東洋に商船を送りたいとのぞんでゐましたが、ここにやうやくそののぞみがとどいて、それぞれ新しく貿易の會社をたて、盛んに活動をはじめました。兩國はイスパニヤやポルトガルとはり合ふため、その勢ひのあまりおよんでゐなかつたジャバ島を根據地として、附近の國國と取引を行ひました。わが國では九州の西のはてにある平戸の港に、兩國の商館がゐましたが、この港は昔から支那との交通が、盛んなところで、ここを足がかりとして、明との貿易を開かうとしたのです。やがてイギリスの商館は、オランダとの競争にたへかねてとゞきれましたが、これからのち、オランダの貿易は一そう盛んになりました。

南の國國 明では、このころ外國と商賣をすることゝを、かたく禁じてゐました。室町幕府のころから、支那の沿岸を荒しまはつた倭寇の群れが、明の水軍のた

めに追ひちらされて、しだいに南に進み、フィリピンや安南の地方に、姿をあらはすやうになつたのは、秀吉のころからです。

秀吉は、南の國國にむかつて、おどしつけるやうなやうすを見せましたが、家康は、これと反対に、たがひにしたしく交はりをつなぐといふ方針をとりました。そして、フィリピン・安南・シヤム・カンボチャなどの國國に手紙を送つて、わが國から渡る商船が、平和に貿易を行ふことができるやうに、はからひました。

朱印船 幕府はこれらの商船に、渡航先を明らかにした朱印狀をあたへました。この朱印狀が證明書となつて、その貿易が保護されました。これを朱印船といひます。

京都や大阪、長崎などの商人や、九州地方の大名などは、南の國國の産物を手に入れるために、年年朱印船を送りました。幕府が開かれてから、およそ三十年

の間に、その地方に渡つた朱印船の数は、三百五十隻ほどもありました。

朱印船は、おもにわが國の銀を積んで、南の國國に渡りました。その渡航先で、明の商人が本國から運んでくる生糸や絹織物を買ひとつたり、またそれらの國でとれる、染料や薬種・鹿皮・象牙などをたくさん仕入れてきました。國內の武士や商人は、先を争つてこれらの商品を手に入れようとして、費用ををしまなかつたので、朱印船の貿易による利益は、かなり大きなものでした。

船は、支那のジャンク船に似た、大がたの木造船が用ひられました。船の針路を定めるために、羅針盤や海圖もそなへつけてありました。太陽や、星の高さをはかつて、船の位置を知る方法も知られてゐました。

このやうに進んだ造船術や航海術については、ポルトガル人や支那人から學んだところが多かつたやうです。今日つたはつてゐる朱印船の繪を見ると、大せい

の乗組の人人が、歌をうたつたり、かるたを取つたりして、楽しい船旅をつづけてゐたやうすがよくわかります。

日本町 朱印船が目ざして行つたフィリピンや安南、シヤムなどの港には、その取り引きの仕事にあたる日本人が、大せい集つて住んでゐる町ができました。これを日本町といひました。これらの人人の中には、關原や大阪の戦ひにやぶれて、徳川氏にうらみをいだきながら、國外に逃げのびた武士や、きりしたん宗の信者などもありました。

朱印船が南の國國に渡つて、わが國ではしがつてゐた数数の商品を買取つてくることは、やがてオランダの利益をそこなふ結果になりました。ことにオランダが臺灣に支那貿易の根據地をきづいてからのちは、競争はいよいよはげしくなつてきました。

支倉常長 家康は、南の國國ばかりでなく、遠く太平洋をこえて、今のメキシコと貿易を開かうと計画し

ました。仙臺の大名伊達政宗が、けらいの支倉常長を
使ひととして、ローマ法王のところに送つたのも、この
ころのことで、政宗もまた、家康と同じやうな考へを
持つてゐたのです。しかしわが國で、きりしたん宗の
取りしまりが、きびしくなつてきたために、とうとう
これらの計画は行はれませんでした。

三 鎖 國

きりしたん宗 家康は、國の中の統一をはかり、ま
た外國としたしい關係を結んで、幕府のもとををかた
めて行くために、きりしたん宗の信仰を許しました。
秀吉のころに、一たんたとざされた教會堂も開かれ、ま
た姿をかくしてゐた宣教師たちも、えんりよなく、そ
の教へをひろめるやうになりました。信者の数も、ま
た年を追うてふえて行きましたので、幕府はやがてそ
の信仰を禁じ、宣教師や信者をきびしく取りしまるこ
とにしました。

もともとヨーロッパからつたはつた、きりしたん宗
の教への中には、わが國のならはしに合はないところ
もありました。幕府はその信者の数が多くなつて行く
につれて、いよいよ政治が、とりにくくなることをお
それました。

ことに西日本の諸大名の間には、秀吉のころから信
仰をまもつてゐたものもあつて、幕府の命令が十分に
行はれず、ひいては徳川氏の地位がふびやかされる心
配もあつたのです。

鎖國令 オランダは、ポルトガルやイスパニヤとは
ちがつたクリスト教を信じてゐたので、これらの國の
の貿易を、さまたげるために、きりしたん宗のひろま
ることは、日本のためにならないと、幕府に申し出ま
した。

幕府は、きりしたん宗を禁じて、宣教師を追ひはら
つたり、信者を苦しめたりしましたが、信仰はすこし
もおとろへず、またひそかに、海外から渡つてくる宣

教師が絶えませんでした。そこで家光の時に、海外と
の交通をすべて禁止する、といふ命令を出しました。
朱印船の渡航は禁ぜられ、また海外ではたらいでゐた
日本人が、本國へ歸つてくることも許されなくなしま
した。大がたの船をつくることさへ、できなくなつた
のです。

寛永十四年（西暦一六三七年）肥前の島原半島で、
きりしたん宗を信する農民がそむいて、幕府にてむか
ひました。この乱は、島原や天草島の領主らの、よく
ない政治に苦しめられた、農民の不平からおこつたも
のでしたが、その勢力は、きはめて強く、十万余りの
幕府の軍をむかへて、およそ五箇月の間、てむかつた
末、やうやくしづまりました。平戸の商館にゐたオラ
ンダ人も、幕府の命令をうけてその攻撃に加はりまし
た。

島原の乱ののち、幕府は、きりしたん宗の取りしま
りを、一そうきびしくする一方、ますます鎖國の方針

をかたくして、それまで長崎で貿易を行つてゐたポ
ルトガル人を、ことごとく追ひはらつてしまひました。
やがて平戸のオランダ商館が長崎にうつされましな
が、オランダ以外のヨーロッパの商船は、すべて來航
することを禁ぜられました。支那各地の商船は、この
のちも、年数多くこの港に出入することになりました。
なほ支那では、このころ明に代つて新しく清が
おこりました。

鎖國によつて、海外との關係が全く断たれることに
なつたのは、關原の戦ひからおよそ四十年のものと
であります。徳川氏の地位は、ここに動かすことの
できないものになりましたが、國民は、こののち世界の
事情に暗くなり、また海外の文化にふれる機会を失つ
てしまひました。

踏繪と宗門改め 幕府は、國內でなほひそかに、き
りしたん宗を信じてゐる人人を、ことごとく探し出し
て罰するために、賞金をかけて宣教師や信者を肩け出

させたり、信者が拜む、きりしたん宗の神の像を人人に踏ませて、その信仰をしらべたりする方法をとりました。すべての人人は、かならず佛教の信者になるやうに定められ、きりしたん宗の信者でないことを、年々寺院から役所に届け出る宗門改めといふ制度もつくられました。このやうにして、幕府はクリスト教をおそれる氣持を、人人の心の中に深く植ゑつけてしまひました。

出島 オランダの商館は、長崎の出島におかれました。出島は、もとポルトガルの商人をおくために、きづいた埋立地（うみだて）であります。

毎年渡つてくるオランダ船が、ここにその商品を荷あげして國內の商人と取り引きしました。生糸や絹織物、毛織物などをはじめとして、南洋の産物もたくさん積まれてきました。そしてかへりには金・銀・銅の類や樟腦（しやうなん）、陶器（たうき）、漆器（しつぎ）などを運んで行きました。これらの輸出品は、オランダの手でヨーロッパに送られ、

また支那をはじめ、東洋の各地に賣りさばかれたのです。

出島のオランダ人は、そこから外に出ることを許されませんでした。商館長は毎年一度、將軍にあいさつをするために、江戸に行くならはしでした。この旅行を通して、わが國の事情や風俗を知ることができたのです。その記事を書いたもので、はじめて鎖國後のわが國情が、ヨーロッパに知られるやうになりました。また幕府は、このオランダ人が年々さし出す報告を見て、世界のやうすをわづかに知ることができたのです。

問題

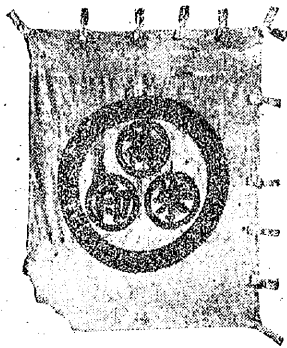
一 江戸幕府は大名を取りしめるために、どんな方法をとりましたか。

二 わが國の地圖をかいて、つぎの地名を書き入れてごらん下さい。

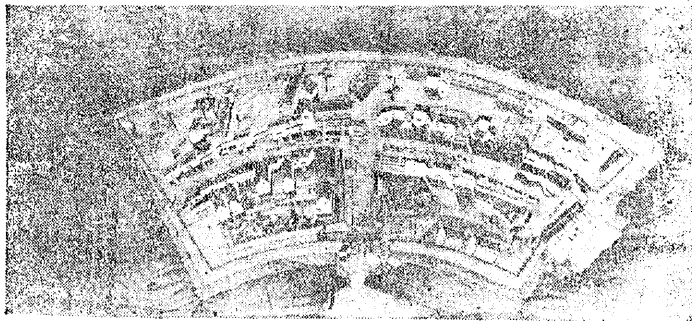
江戸 大阪 關原 長崎

三 朱印船は南の國で、どんな商品を取り引きしましたか。

四 幕府はなぜ鎖國をしたのですか。鎖國をしたことは、わが國にとって、どんな利益になりましたか。またどんな損失になりましたか。



朱印船の旗じるし



出島

第八 江戸と大阪

一 農村と町

武士と農民 このころ全国の大名は、それぞれ地方の大きな町に城をかまへてゐました。大名につかへる大勢の武士は、その城のまはりに住んでゐました。このやうに、武士が町に住むやうになつたのは、戦國時代からのことで、古くは武士も農村に住み、また農民もいくさの時には、武器をとつて戦つたのです。武士が農村をはなれてしまつてから、農民もいくさに出ることがなくなり、農業だけに力をつくすことになりました。

幕府は農業を一番大事な産業としてゐましたが、中でも米をつくることが重んぜられました。大名の領地はその米のとれただかで示されました。これを石高と

つたはりました。

農村のすがた このころの農村は自治を許されてゐました。農民の上に立つて、村を治める役目を、庄屋とか名主なぬしとかよんでゐました。今の村長にあたる仕事です。

農民は村にわりあてられる年貢ねんぎんを、たがひにわけて納めなければなりません。五人組ごにぐみといふ制度があつて、五軒の家が集つて一組となり、毎日の仕事やくらしの上でたがひに助けあひ、また、責任を持ちあふしくみになつてゐました。その頭になる家を、組頭ぐみかみといひました。幕府がこの五人組の制度をつくつたのは、一つには、きりしたん宗の信者を取りしめるためでした。

農民は武士につぐ身分とはいへ、商業や工業に従ふ人人にくらべて、はるかに低いくらしをしてゐました。幕府は、農民のくらし方についてことごとくきしづし、またいろいろな制限けんげんを加へ、なるべく高いくらしをし

いひます。そして大名につかへる武士は、俸祿ほうりくとして受ける米でくらしをたててゐたのです。したがつて農民が米をつくるといふ仕事は、町に住む武士の生活と結びついた大せつなことでありました。

幕府をはじめ全国の大名は農業をすすめました。荒れた土地を開いたり、海岸の沼地を埋め立てたりして田や畠がずつとふえるやうになりました。また支那や南の國國からめづらしい植物がたはり、作物の種類も増してきました。さつまいも・かぼちや・たばこなどは、このころはじめてわが國に知られた作物です。さつまいもは支那が原産地ですが、琉球りゅうきゅうをへて薩摩さつまにつたへられたので、さつまいもとよばれてゐます。かぼちやはインド支那のカンボヂヤの國から渡つてきたものです。また、たばこは家康の時にフィリピンから

ないやうにはかりました。農民は自分でつくる米を食べることもできず、絹の着物をさることも許されません。りつばな家に住むことはもちろん、馬に乗ることさへ禁ぜられてゐました。このやうにして農民は低いくらしをして、一年中その仕事にせいをだしてゐたのです。

町人 町人といふのは、商業や工業に従つてゐる人をさした言葉です。武士は、農業をくに重んじてゐたため、町人をいやしめてゐました。中でも商人は樂なくらしをして、利益をむさぼつてゐるといはれ、身分は最も低いものにされてゐました。しかし、商人の中には、多くの財産をたくはへて、かへつて大名よりも、高いくらしをしてゐた人々がたくさんありました。

商人は城下町や港町などに集つて、たがひに組合をつくり、強い勢力を持つてゐました。大きな店が軒をならべ、またにぎやかな市場も立ちました。商品を馬

の背に乗せたり、船に積んだりして遠くの町へ運び、港から港へ送ることも、盛んに行はれてゐました。鎖國の制度が定められて、海外の國と貿易を行ふことができなくなつてからは、ますます國內の商業が盛んになることになりました。

日本海にそつた地方から、太平洋岸や、瀬戸内海方面の地方へ、たくさんの商品を送るために、沿岸の航路が開かれるやうになつたのも、このころのことです。そして江戸と大阪は、最も開けたりつばな都市になりました。

二 元祿のころ

元祿風、鎖國ののり、國の中はいくさもなく、おだやかな年がつづきました。將軍をはじめ、江戸に集つてくる諸大名や、その下につかへる武士が、しだいに武づつたことをきらつて、せいたくなくらしを好み、遊びにふけるやうになりました。

ありのままの姿や細かい氣持を、面白くうつし出したものです。

わが國の繪の中で、ひろく世界に知られてゐる浮世繪は、元祿のころから、すぐれたものができるやうになりました。浮世繪といふ名は、楽しい世の姿をうつし出した繪といふ意味です。そのころの人に大そう喜ばれたので、版画にしてたくさん賣りひろめられたのです。のちには色を多く用ひた、きれいな版画ができました。安藤廣重が、東海道五十三次の宿場をかいいた繪はことに有名です。

元祿のころ、富み榮えた江戸や大阪の町人の間に生まれた、このやうな明るい風俗を、元祿風と呼んでゐます。今でも元祿模様や元祿袖などといつて、その名がのこつてゐます。また折り紙や道中すご六などの楽しい遊びも、このころにはじまつたものだといふことです。

鑛山と貨幣 戦國時代に、國國の大名が、その領分

元祿のころ、世の中の風俗はきはめてはでな、はなやかなものになりました。きれいな衣裳や帯が用ひられ、髪かたちや、けしやうにも工夫がこらされました。そのほか部屋のかざりや、道具の類などもせいいたくなものがありました。

歌舞伎芝居や人形浄瑠璃が、盛んになつたのはこのころでした。大阪の近松門左衛門は多くのりつばな浄瑠璃をつくりました。

このやうな町人や武士の生活をかいいた小説も行はれましたが、井原西鶴の作品はことにすぐれてゐます。他方に、またこのはなやかな、あわたたしい世の中に、しづかな落ちついた心持をあらはした俳諧が生まれしました。松尾芭蕉は、名高い俳句をたくさんこのしてゐます。

俳句は十七字からなる短い詩ですが、これと似た形のものに川柳があります。川柳は俳句よりもずつとおくれではやるやうになりました。川柳は世間の人人の、

にある鑛山を盛んにほつたので、その技術は大そう進みました。支那やヨーロッパの進んだ技術もと入れられたのです。家康は、大きな鑛山をすべて幕府のものにして、金や銀を多く手に入れることをはかりました。佐渡の金山や石見の銀山などがおもなものです。幕府は、その金や銀を用ひて、貨幣をつくり、全國に通用させてゐました。慶長年間にできた大判・小判は、ことにりつばなものであります。

元祿年中に、幕府はこれまで用ひられてゐた、質のよい貨幣をいなしして、よくないものをたくさんつくりました。これは、町人の富の力によつて、世の中がしだいにはなやかになるにつれて、幕府の物いりが多くなり、年年のきまつた収入だけでは、支へきれないやうになつてきたためです。しかし貨幣の質を悪くしたために、かへつて物價が高くなつて、貧しい人人を苦しめました。

こののち、幕府につかへた學者漸井白石は、このや

り方がまちがつてゐたことに気づいて、もとのやうな質のよい貨幣を、通用させなければならぬといふ意見を出しました。白石は、幕府の経済がゆたかになつた原因を、外國貿易によつて、わが國の金や銀が海外にたくさん流れ出たためであるといひ、それをおさへるには、年年長崎にくる外國の商船の数を定め、また輸入する商品を少くしなければならぬと説きました。

そこで幕府は、白石の言葉にもとづいて、長崎の貿易を制限することになりました。白石は、経済のことばかりでなく、そのころあまり知られてゐなかつた世界の事情を、くはしくしらべたり、また、わが國の古い歴史や言葉について研究した、すぐれた學者であります。

徳川吉宗 八代將軍吉宗は、おとろへかけた幕府をたてなほすことに力をつくしました。

吉宗は、元祿のころから、あまりぜいたくになつた

世の中の氣分をひきしめ、不足がちな幕府の財政を、もとのやうにゆたかにするために、むだづかひをしない、質素な暮らし方をすすめました。そしてひろく世間の人人が、自由に政治上の意見をのべ、將軍にむかつて、思ふとほりのことを訴へることができるようになり、目安箱の制度をつくり、また大岡忠相を江戸町奉行にとり立てて、正しい裁判を行はせました。忠相が、いろいろこみいつた事件をたくみにさばいた話は、世の中にひろくつたばり、物語となつてたくさんのかつてゐます。

一方吉宗は、産業をおこすことが何よりも大せつであると考えて、國國の土地をしらべ、新しく田や畠を開き、米のとれたかを、ふやすことに骨を折りました。また、ききんの年にそなへるために、さつまいもを各地に植ゑさせたり、さたうきびから砂糖をとることを、研究させたりしました。青木昆陽は吉宗の言ひつけをうけて、さつまいもの種を薩摩から取りよせて、江戸

小石川にある幕府の藥園に植ゑました。それで昆陽のことを、人人は甘藷先生と呼びました。

將軍が先に立つて、このやうな仕事をしたので、諸大名も、みなその領内の産業をおこすことに力をそそぎました。

鹿兒島縣のたばこ、群馬縣や長野縣の養蚕業、四國や中國地方の塩などは今日大せつな産業になつてゐますが、これらはみな、このころから盛んになつたものです。

三 學問の道

儒教と寺子屋 家康は、幕府をたてた時から、儒教の教へによつて、世の中を治めて行く方針をとりました。そして儒者の林羅山を重く用ひて政治を行ひ、書物も多く集めたり、銅の活字を使つて、支那の古い本を出版したりしました。この活版の技術は、秀吉のころに、はじめてわが國に知られたものであります。そ

ののち儒教は大そう盛んになりました。近江聖人といはれた中江藤樹や、京都の伊藤仁齋、江戸の荻生徂徠など、それぞれすぐれた説を立てました。これらの學者は、その研究にあたつて、とかく支那を崇拜する傾きがありました。山崎闇斎と山鹿素行は、神道と結びついた説を新しくのべました。

また儒教をもとにして、一般の人人に、わかりやすい教へをのべた貝原益軒や、心學といつて儒教に神道や佛教の教へをまぜて、面白く説くことをはじめた石田梅巖や、農民の道を説いた二宮尊徳なども有名であります。

儒教の教へをひろく學ばせるために、幕府では昌平坂に學問所を設けましたが、地方の藩でも藩學をおいて、武士の少年たちを教へました。

町でも農村でも、子供たちは寺子屋に通つて、讀の書きを學びました。ざしきの正面に机をおいた師匠の前に、小さな机をならべて、おとなしく手習ひをした

り、また一人一人師匠の前に出て、いろいろな本の読み方を習ひました。

一國學 儒教が盛んに行はれるにつれて、すべてのものごとを見て行く上に、昔の學者の意見にとらはれず、ちかちかのものについて考へてみるといふ、學問の道が開かれるやうになつてきました。

わが國の大昔の言葉や、歴史を明らかにすることに志す學者が出てきました。これらの人人は、萬葉集や古事記の研究を盛んに行ひ、儒教や佛教がまたつたはつてこない時代の、わが國の姿を知らうとつとめしました。これを國學といひます。伊勢松阪の本居宣長は、一生かかつて、古事記を研究し、古事記傳をあらはしました。

昔の人人が書きのこしたものは、たとへわづかなものでも、そのころの世のありさまを知る、大せつな材料になります。宣長と、同じころの學者、堀保己一は、昔の本を多くあつめて、群書類從といふ名をつ

ト教に關係のないものは許す方針をとりました。吉宗はヨーロッパの學問が大そう好きでしたが、その中でも天文や曆に興味をもつて、太陽や星を観測するさかを作つたこともありました。吉宗は青木昆陽にいひつけて、オランダ語を習はせました。

そのうちオランダの醫學を學ぼうとする熱心な學者が出るやうになりました。前野良澤は長崎に行き、オランダ語を學び、また醫學の本を手に入れました。杉田玄白は良澤と一しよに、はじめて江戸の小塚原の刑場で、罪人のからだを解ぼうして、醫學の本にのつてゐる解ぼうの圖が、正しいことに感心しました。それからオランダ語の研究を進めて、オランダの本をほんやくし、はじめて解體新書といふ解ぼうの本をあらはしました。

そのころオランダの學問を蘭學と呼び、これを學ぶ學者を蘭學者といひました。蘭學者は、多く医者出身で、ヨーロッパの進んだ醫學を、わが國にとり入れ

け、版にして、失はれないやうにしました。また、水戸の大名徳川光圀は、けらいにいひつけて、全國から、歴史の材料となる古い本や書きものを集めたり、うづさせたりして、長い間かかつて大日本史をつくらせました。

蘭學 ボルトガル人が、わが國と、交通してゐたころには、いろいろ新しいヨーロッパの知識が、つたはつてきましたが、家光の時に、鎖國令が出てからのちは、國民は、しだいに外國の事情がわからなくなりました。

しかし、ものごとを深く知らうとする氣持が學者の間に高まつて行くにつれて、オランダの言葉を學び、それによつてヨーロッパの文明にふれたいと考へる學者が、多くなつてきました。

このころまで、支那の船が積んでくる本の中で、ヨーロッパのことについて書いてあるものは、一さい輸入することを禁ぜられてゐましたが、吉宗は、クリス

ることに力をつくしました。

出島の商館員の中にも、すぐれた医者がゐて、これらの蘭學者をよく教へたので、外科や内科をはじめ、いろいろな方面の醫學の知識や技術がひろまるやうになりました。

醫學と關係の深い植物學や化學も、オランダの本を通してはいつてきました。また、幕府の天文の仕事をするうけもつてゐる人人は、天文や曆の學問を、オランダの本によつて學び、わからないことがあれば、年年、將軍にあいさつをするために、江戸にくるオランダ人に聞いたといふことです。天文學とならんで、地理の學問や測量の方法などもつたはりました。伊能忠敬は、幕府の命令を受けて、年をとつた身で、國國を歩きまはつて、正確な測量を行ひ、りつばな地圖をつくりました。

そのほか砲術や兵學についての知識も、盛んにとり入れられました。そしてのちには大砲をつくることや、

ヨーロッパ風の兵式教練などが行はれることになりました。

鎖國のために、一般の人人は、海外のやうすがわからず、またヨーロッパの科學についても、よく知りませんでした。しかし、幕府は、このやうにすすんで蘭學をとり入れ、蘭學者を用ひ、またいつも、オランダ人を通して、世界の事情を知ることにつとめてゐたのです。

三 大開さばきのお話を知つてゐたら、おたがひに発談しあひませう。

四 つぎの人人は、どんなことをしたので有名ですか。

松尾芭蕉	本居宣長	杉田玄白
安藤廣重	二宮尊徳	新井白石

五 鎖國をしたのち、海外の事情は、どこからどのやうにして、わが國にはいつてきましたか。また、それをつたへたのはおもにどこの人でしたか。

問題

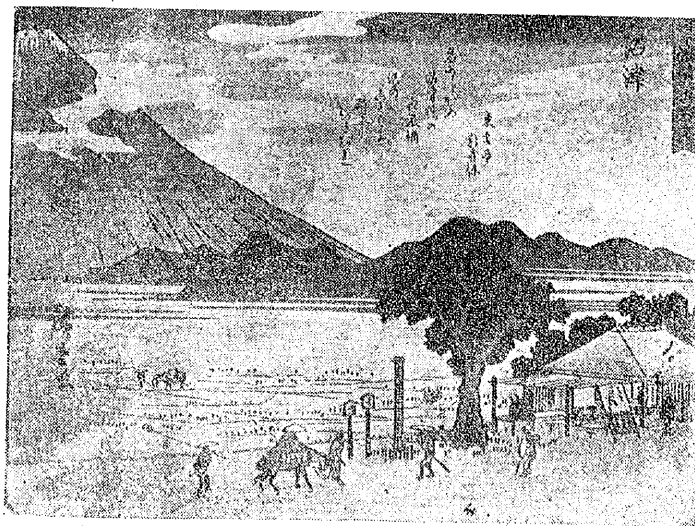
一 つぎのことからについて知つてゐることをいつてごらんなう。

天領 本陣 五人組 士農工商 川柳 心學

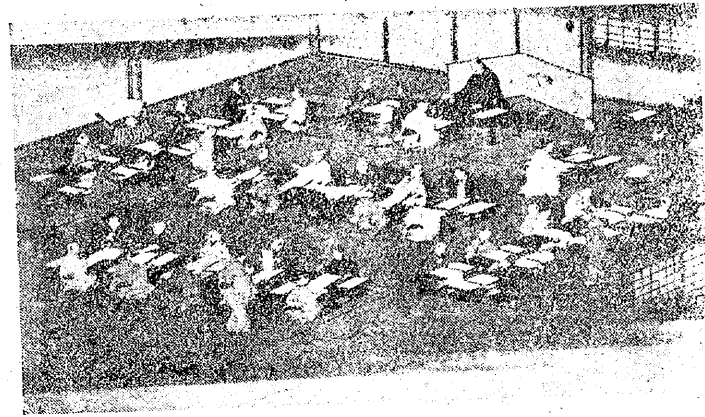
二 身分の低い町人が、だんだん大きな力を持つやうになつたのはなぜですか。



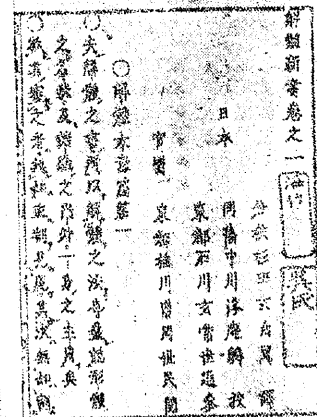
浮世繪 (一)



浮世繪 (二)



寺 千 島



杉田玄白と解體新書

第九幕 府の衰亡

一 世界の動き

ヨーロッパの國 長い間の鎖國によつて、國の中は平和がつづいてゐました。その間にヨーロッパでは、これまで東洋の各地と貿易を行ひ、大きな勢力を持つてゐたオランダがおとろへ、イギリスが新しい工業國として盛んになつてきました。イギリスの商船はインドを根據地にして、支那の港にも出入するやうになりました。イギリスから独立して、大陸に國をたてたアメリカ合衆國は、やがて太平洋岸の地方をあはせ、さらに遠く海をこえて、支那と通商するやうになりました。この太平洋の航路には、新しく發明された汽船が、帆船に代つて用ひられてゐました。またこのころから北太平洋方面に、活やくしはじめたイギリスやアメ

リカの捕鯨船が、時々わが近海に姿を見せるやうになりました。

シベリヤから千島列島の方面にかけては、ロシアの勢ひがのびてきてゐました。この地方には、てん・らつこなどがたくさんすんでゐて、その毛皮はヨーロッパの人人に大そう喜ばれ、價の高いものとされてゐました。ロシア人がだんだんと東洋へ進んできたのは、一つにはその毛皮を手にいれるためだつたといはれてゐます。

これらの國國にとつて、わが國が國をとぎして、まったく外國の船を、近づけようとしなないことは、何かと不便なことでありました。またわが國と貿易を開きたいといふのぞきも強かつたので、やがて幕府にむかつて、ぜひ國を開いて貿易を許してほしいと、申し出

るやうになりました。

蝦夷地とロシア人 そのころ北海道は松前藩の領地で、蝦夷地と呼ばれてゐました。しかしこの方面には、まだ日本人も少なく、またその附近の地理は十分に知られてゐなかつたのです。十一代將軍家齊の時、寛政四年（西暦一七九二年）に、はじめてロシアの使ひが松前に來て、幕府に貿易を聞きたいと申し出ました。けれども幕府はこれを許しませんでした。この時、使ひは、その船にわが國の漂流民を乗せて送りかへしてきました。この漂流民は、ロシアで大事にされ、長い間方角を見物してきたので、學者はそのみやげ話を聞いて、はじめてロシアの事情をくはしく知ることができました。

このうち、幕府では松前奉行を置いて、むかに蝦夷地を治めることにしました。また間宮林藏が幕府の命令で、はじめて樺太の探検を行ったのも、このころのことです。樺太は、この時まで大陸と地つづきの半島

し、天津や、廣東などの港を開くことになつて和ぼくしました。この阿片戦争のことを、つたへ聞いた幕府では、大そう心配して、外國の船をうちほらふ命令を、いくぶんゆるやかにすることにきめました。しかし、鎖國は先祖の代からずっとまもつてきたことであるといつて、改めようとはしませんでした。

またオランダの國王から使ひがきて、幕府に、早く國を開くやうにとすすめてきた時にも、幕府はそのすすめに従ひませんでした。

幕府が、このやうに、昔からの鎖國の方針をかたくまもつてゐる間に、東洋のほかの國は、年を追うてヨーロッパの國國としたしくなつて行きました。わが國だけが、この大きな流れの中に、とりのこされてゐることはできなくなつてきました。

二 町人の力

であると信ぜられてゐましたが、林藏は、實地にしらべた上で、島であることを明らかにしました。この島と大陸との間の海峡は、今日、間宮海峡と呼ばれてゐます。

イギリスとオランダ 幕府は、これらの外國の船がしきりに近海にあらはれるやうになつたので、沿岸のまもりをきびしくしてゐましたが、文政八年（西暦一八二五年）には海岸に近づく外國の船は、たとへ、どのやうな事情があつても、かならず大砲をうちかけて追ひはらふやう、諸大名に命令しました。のちに蘭學者の渡邊崋山や高野長英は、このやうな方針が、世界の事情を知らない無理なものであるといつて、反対したために罰せられました。これは天保十年（西暦一八三九年）のことです。

ちやうど、この年に、清國では、インドの阿片を輸入することがもとなつて、イギリスと戦ひを開きました。その結果、清國がやぶれて、香港をゆづり渡

武士と町人 江戸や大阪をはじめとして、大きな都市に武士が集り、ぜいたくなくらしをするやうになつてから、武士はその高い身分にもかかはらず、町人のために、しだいに苦しめられることになりました。もともと武士は町人をいやしめ、貨幣をかく見てゐました。しかし、くらしむきかはでになるにつれて、物いりが多くなり、どうしても、その俸祿の米を、貨幣にかへるより外はありませんでした。そのために、全國の大名は國もとから江戸や大阪に、米やそのほかの産物を送つて、これを町人の手に渡すことがふつうになつてゐました。貨幣を自由に取らあつかつてゐる町人は、かうして武士の勢力にとつて代つて、いつの間にか世の中を實際に動かして行く、大きな力となつて行きました。

幕府は、このやうな世の中を、変へようとして、力をつくしました。寛政年間に、老中となつた松平定信は、ぜいたくをいまして、質素なくらしをすること

を、すすめました。また諸大名に命じて、きさんの年
に、そなへるために、もみを貯へさせたり、また、こ
く貧しい人人を救ふ制度をつくつたりしました。今日
の養老院は、この時の制度が長くのこつたものであり
ます。

定信の骨折りもそのかひがなく、定信が退いたのち
は、またぜいたくな氣分が年を追うて高まり、武士は
ますますくらしに困つてきました。天保のころに、老
中となつた水野忠邦は、一そうきびしいやり方で、町
人の力をおさへようとしてしました。こののち、こみいつ
た外交の問題がおこつてきたために、幕府は海岸のそ
なへをかたくしたり、軍艦を用意したりすることに、
たくさん費用をつかひ、財政はますます苦しくなつ
てきました。

このやうに行きづまつた世の中を、すつかり改める
ために、幕府を倒して、政治の中心を、朝廷にうつさ
うとする人人が、やうやく多くなつてきました。藩か
ずいたりしても、その働きから得た収入が、いつのま
にか町人の手に渡つてしまふのでした。

農村がおとろへるやうになると、農民の氣持も、す
さんできました。また、農民の上に立つ武士も、前は
どの威勢がなくなつてきました。士・農・工・商とい
ふ身分のちがひも、ただ、名前だけになつてしまひま
した。

學者の間には、農業をたてなはし、経済の組み立て
をかへて、新しい世の中をつくらうといふ意見を示し
た人人もありました。佐藤信淵は、ひろく諸國の事情
をしらべて、農業の改革を説き、また外國の例をひい
て、國を富ますためには産業をおこして、交易を盛ん
にしなければならぬといふべしました。

三 開 國

神奈川條約 アメリカは、清國と通商條約を結んで
から、間もなく嘉永六年（西暦一八五三年）提督ペリー

らはなれた浪士たちの間にも、ひそかに京都の公家の
もとに出入して、その相談をするものが少くありませ
んでした。

農村のおとろへ 農村は年貢の高がますます多くな
つて行くために、一そう暮しくなくなつてゐました。

先祖の時から受けついできた田や畠をすてて、ほかの
土地ににげて行つたり、町に出て働いたりする人たち
もたくさんありました。また天災やきさんが、たびた
びおこつて人人を苦しめました。天明年間には、こと
にはげしいきさんがありました。幕府をはじめ諸國の
大名は、農民をうる死から救ふためにいろいろ骨を折
りました。

このやうにして、農村はだんだんおとろへ、その人
口はへり、田や畠は荒れてしまひました。その上、こ
れまで町人の力があまり及んでゐなかつた農村にも、
やがてその力が加はつてくるやうになりました。農民
が毎日のせはしい仕事のひまに、機織つたり、紙を

を、わが國に送つて港を開き、通商を行ひたいと申し
出てきました。これは、一つには太平洋を往復する汽
船のために、日本の港に石炭を貯へておく場所がほし
かつたのです。相模の浦賀で、その手紙を受けとつた
幕府では、返事をつぎの年までのばすことにしたの
で、ペリーは一まづ浦賀を去つて行きました。幕府は
このことを京都の朝廷に知らせ、また國を開くことに
ついて、諸大名の意見も聞くことにしました。これま
で何事につけても、すべて幕府だけでとりきめてゐた
しきたりが、ここでやぶれて、幕府の威光はやうやく
失はれ、大名もそれぞれ思ふままのことを言ひ出すや
うになりました。水戸藩の徳川齊昭をはじめ、攘夷を
となへるものが多かつたのに、翌年ペリーが神奈川に
來た時、幕府は和親條約を結んで、下田と函館の二つ
の港を開くことを約束しました。

ペリーが幕府におくつた物の中に、電信機や汽車な
どの模型がありました。わが國の人人は、このめづら

しい機械をはじめ見て、すぐれた科學の力に大そう
おどろいたといふことです。

日米通商條約 安政元年（西暦一八五四年）幕府は
ペリーと神奈川條約を結んだのちに、イギリス・ロシ
ヤ・オランダの三國とも、大たい同じやうな條約を結
びました。そのころアメリカから總領事ハリスが來朝
しました。世界の大勢を説いて、早く國を開き通商貿
易をはじめめるやうに、すすめましたので、幕府もその
方針をとることになりました。老中堀田正睦は、ハリ
スと相談の上、條約文の下書をつくつて京都に行き、
勅許を願ひましたが、このころ攘夷となへて開港に
反対するものが多く、朝廷もその説に傾いてゐたので
許されませんでした。

そののち、大老となつた井伊直弼は、安政五年（西
暦一八五八年）に、勅許をまたずに、アメリカと條約
を結んで、新たに神奈川・兵庫・長崎・新潟の四つの
港を開く、といふ約束をきめてしまひました。つづい
て幕府は、このやうな國內のさわぎをおさへることがで
きなかつた上に、外交の方針についても自信がなく、
朝廷のさしづをあふいだのです。

薩州藩・長州藩・土州藩など、西日本の大名らは、
もともと、徳川氏とは、縁がうすい間からにありまし
たが、幕府の力が、おとろへるやうになると、朝廷に
ある、三條實美らの公家と交はつて、政治の仕組ひを
かへるために、大きなはたらきを、するやうになりま
した。

下關の砲撃 長州藩では、早く攘夷を実行するや
う、朝廷を動かして、幕府は勅命をうけて、その期日を
定めました。その日から長州藩では、下關海峡を渡る
外國船を砲撃しました。このことは、外交の上で、大
きな問題をひきおこしましたが、そのつぎの年、元治
元年（西暦一八六四年）にアメリカ・イギリス・フラ
ンス・オランダの聯合艦隊は、下關に砲撃を加へ、長
州藩をさんざんにやぶりました。薩州藩でも、このこ

て、オランダ・ロシア・イギリス・フランスの四國と
も、同じやうな條約を結びました。寛永の鎖國令から
およそ二百二十年の間、海外の國と交際を絶つてゐた
わが國が、ここにはじめて、國を開くことになつたの
です。

開國の影響 開國の方針が定まり、外國貿易がはじ
まると、これらの港は、にはかにぎやかになりました。
そして生糸や茶や金などが、盛んに輸出されるや
うになりました。外國から買ひ入れる品としては、綿
織物や毛織物などがありました。その額はわづかな
ものでした。貿易にあつた商人たちは、大そう利益
をうけました。しかし國內では物價がますます高くな
つて、武士をはじめ一般の人人は、一そう暮しくく
なつてきました。幕府が國を開いたために、生活がこ
んなに苦しくなつてきたのだといふ考へを起すものが
あり、やがて幕府を倒し、前のやうに外國船をいさ
近づけまいとする動きが、活ばつてなつてきました。

る、イギリス人を殺したことがもとになつて、イギ
リスの軍艦から砲撃をうけたことがありました。このの
ち、薩州藩でも、長州藩でも開國の方針に傾くやうに
なりました。

イギリスは、日本との貿易で、他の國國よりも、大
きな取り引きをしてゐましたが、幕府が、実力を持つ
てゐないことを知り、これまで、幕府といたしくして
ゐた方針を変へて、朝廷を政治の中心にたてようとし
る、薩州藩や長州藩と、したしくするやうになりました。

長州征伐 長州藩は、はじめ朝廷の中で大きな勢力
を持つてゐましたが、孝明天皇は、その運動があまり
はげしすぎることを、好まねなかつたので、おだやか
な薩州藩の意見をお用ひになつて、元治元年、長州藩
を京都からお退けになり、三條實美らの公家の參内を
とめられました。そののち長州の藩士らは、京都に入
らうとして、薩州や會津などの諸藩と戦ひをまじへま

した。

幕府では、長州藩をうつために、二回にわたつて兵を送りました。しかし薩州藩をはじめ、幕府の命令に従はない藩があつたばかりでなく、幕府の軍隊も弱くて、なかなか長州藩をやぶることができませんでした。この戦ひの最中に、慶應二年（西暦一八六六年）將軍家茂がなくなりました。つづいて、孝明天皇がおかくれになり、明治天皇が、御年十六才で即位されました。

ここに長州征伐の軍隊は、とかれることになりましたが、この戦ひによつて、幕府が実力を持たないことが、明らかになつたので、國の中には幕府を倒して、新しい、よい世の中をつくらうといふ氣持が、一そり高まるやうになりました。

幕府の滅亡 薩州藩では、これまで朝廷と幕府の間を結びつけて、おだやかに政治の改革を行はうといふ意見で進んでゐました。しかし幕府が、たうてい、た

よりにならないことを知つてから、幕府を倒す運動を

おこすやうになりました。この運動の中心になつたのは西郷隆盛・大久保利通らでありました。朝廷では岩倉具視らの公家がこれに加はり、また長州藩の木戸孝允も、この人人と一しよに、そのはかりごとにあづかつてゐました。

幕府も世の中の大きな動きにさからつて行くことはできませんでした。このころ、土州藩の後藤象二郎は、政治の中心を幕府から朝廷にうつさうと考へました。が、十五代將軍となつた徳川慶喜は、同藩の前藩主山内豐信のすすめを聞き入れて、このことを朝廷に申し出ました。これは慶應三年（西暦一八六七年）のことです。家康が將軍となつてから、およそ二百六十年たちました。ここに幕府はほろびて、新しい明治の代となりました。

問題

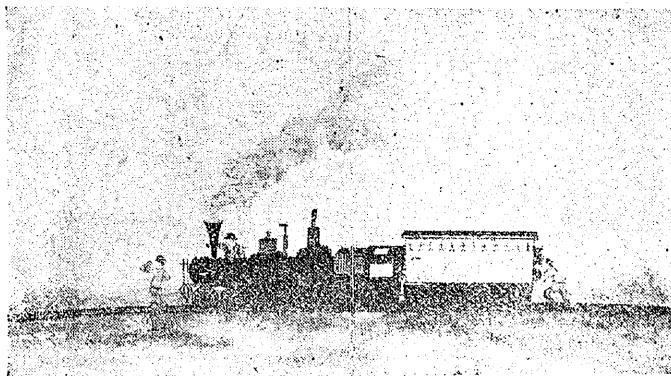
一 地圖を見て、開宮海峡がどこにあるか、しらべてごらん下さい。

二 このころ農村がだんだんおとろへるやうになつたのはなぜですか。

三 幕府が國を開くまでに、外國との間にどんなことがありましたか。

四 わが國が鎖國をしてゐた間に、世界のやうすはどんな風に変わりましたか。またどのやうなことが発見され、發明されたか、しらべてみませう。

五 なぜ幕府はほろびたのでせう。幕府を倒す運動に加はつたおもな藩はどこですか。



ベ リ ー の 汽 車

第十明 治 の 維 新

一 新政の成り立ち

新しい政治 幕府がほろび、政治の中心は朝廷にうつりましたが、新しい政治をはじめることは、またたやすいことではありませんでした。岩倉其視らは、幕府のやり方に満足しないで、どこまでも幕府の力をねこそぎなくし、また朝廷の制度をすっかり改めようと思いました。そこで、はかりごとをめぐらして、慶應三年十二月に、大改革を行いました。

まづ攝政・關白などの制度を廢し、つぎに征夷大將軍をやめて、ふたたび武家政治がおこらないやうにしました。新たに總裁・議定・參典の三職をおき、やがて太政官をはじめ、新しくいろいろの役所をつくることにしました。これを王政復古といひます。

つたので、いろいろめんだうなことがおこりましたが、政府は外國と手をにぎつて、そのよいものを取り入れ、國の發達をはからうとしました。

東京の都 京都が、都となつてから千年あまりになります。政治を新しくするためには、まづ、人人の氣持を変へなければなりません。それには、都をうつすのがよいといふことになりました。そして、大阪がよからうといふ人もありましたが、そののち、江戸にうつすことにきまりました。そこで、江戸を、東京と改め、まづ、東京に行幸がありました。やがて、皇居もここにうつされ、東京が、日本の都になつたのであります。

天皇は、八月に京都の紫宸殿で、即位の禮をおあげになり、年号を明治と改めて、一世一元の制をお立てになりました。

江戸城の明け渡し 幕府がほろびた時、朝廷は、慶喜の官職や幕府の領地を渡すやうに命じました。とこ

五箇條の御誓文 かうして政治のもとゐるができたので、明治元年（西暦一八六八年）三月に、天皇は、親しく新政の方針をお誓ひになりました。

- 一 廣く會議ヲ興シ、萬機公論ニ決スベシ。
 - 一 上下心ヲ一ニシテ、盛ニ經綸ヲ行フベシ。
 - 一 官武一途庶民ニ至ル迄、各其志ヲ遂グ、人心ヲシテ倦マザラシメン事ヲ要ス。
 - 一 舊來ノ陋習ヲ破リ、天地ノ公道ニ基クベシ。
 - 一 智識ヲ世界ニ求メ、大ニ皇基ヲ振起スベシ。
- これを五箇條の御誓文といひます。

さうして、諸外國とますますしたしくするために、王政復古のことを、各國に告げ、また國民にむかつて、これからは外國とあつく交はらなければならぬとさしました。これまでは外交の方針が定まらな

ろが、幕府のものけらいや、會津・桑名などの諸藩は、これを不平に思つて、明治元年の正月に、鳥羽・伏見の戦ひをおこしました。このさきわきは、江戸から東北地方にひろがり、函館にまでおよび、しばらくいくさがつづきました。しかし慶喜は、このころ江戸に歸つてきんしんし、江戸城を明け渡しましたので、朝廷は慶喜をゆるし、徳川の家を静岡にうつして、七十万石の大名としました。

維新の政治 幕府はほろびましたが、まだ各地には大名がゐて、もとの通り領内を治めてゐました。國內を一つにまとめるためには、大名をやめさせなければなりません。そこで木戸孝允は、大久保利通と相談して、大名の領地を朝廷にひき渡すやうにしました。多くの大名もこれをのぞんでゐましたので、明治二年（西暦一八六九年）の正月に、まづ薩州・長州・土州・佐賀の四藩主がそろつて、領地をさし出すことを申し出ました。ほかの諸藩もつぎつぎにこれになつたの

で、六月にはこれを許し、なほしばらくもとの大名を知事として、それぞれ領地を治めさせることにしました。

明治四年（西暦一八七一年）七月には、いよいよ藩を廃して、縣をおくことになりました。これで大名は、まったく領地からはなれることになりました。

藩がなくなつたので、政府は全國を統一し、一まづ維新の目的をとげることができました。そこで制度を改め、太政官を正院・左院・右院の三院に分け、太政大臣、左・右大臣、参議の三職をおきました。太政大臣は、今の内閣総理大臣にあたり、三條實美がこれに任ぜられました。このほか神祇・外務・大藏・兵部・文部・工部・司法・宮内の八省を定め、各省のかしらには、卿をおきました。

昔からの武士はもうなくなつてゐますので、國をもるためには、兵隊を必要としました。そこで、鎮臺をおき、御親兵をもうけ、明治五年（西暦一八七二年）

には徴兵令をしいて、國民はみな兵役につくことになりました。

二 新しい社會へ

いろいろの改革 江戸時代には、國民の中に、身分や職業によつて、きびしい上下の區別がありました。

明治となつて、これをやめて、ただ華族・士族・平民の三つとしました。これも昔の身分とはちがつて、國民としては、みんな同じやうな取りあひを受けるのです。これをこのころ國民平等といひました。そしてそれぞれ好きな仕事につくことができるやうになりました。

かうして、政府は、國民の身の上を、自由にしようとした。しかし、世のうつり変りのために、出世をした人もあれば、おちぶれた人もありました。士族の中には、職を失つて、こまるものが、たくさん出てきました。

東京・横濱間の鉄道は、明治五年に開通しました。

これが日本で一ばん早くできた鉄道であります。東海道線が全部開通したのは、明治二十二年（西暦一八八九年）のことです。

鎖國の時代には、大きな船をつくることが許されませんでした。が、國を開いたころから、これも許され、だんだん汽船をつくれるやうになりました。明治となつてからは汽船會社ができて、海上の交通も開けてきました。

政府は、また郵便の制度を定め、誰でも、らくに通信ができるやうにしました。郵便切手や、はがきのできたのも、このころのことです。郵便とともに、電信もできましたが、この便利なものも、はじめは多くの人人にふしぎに思はれたはずです。このほか、いろいろの會社や銀行などもできてきました。

新しい産業 國を富ますためには、産業をおこす必要があります。政府は、明治四年に、岩倉具視らを歐

米につかはした時に、外國の産業のありさまを、くはしくしらべさせました。

また工部省のほかに、新たに内務省や農商務省において、産業の発達に力をいれました。政府がさきに立つて、農業や牧畜、その他製糸業・紡績業・礦山業などをおこし、牧場や工場をつくりました。

これらの産業は、みな西洋の進んだ技術を學んだもので、多くの人人が西洋に行つて、いろいろ熱心にしらべたり、また外國の技師がきて、これを教へたりしました。

農業の技術も新しく西洋からとり入れました。かやうに、産業がにはかに進歩したのは、政府の保護によるものです。それから民間でもこれにならつて、産業をおこすやうになりました。國內の産業が発達するにつれて、外國との貿易も盛んになりました。このころは、おもに生糸や茶を輸出し、綿・砂糖などを輸入しました。

てられ、地方には、たくさん的小學校や中學校ができました。

教育のことで、手がらのあつた人に、福澤諭吉・田中不二麿^{ふたみ}らがあります。ことに、福澤は學校をたてたり、たくさんの本を書いたりして人人を教へました。またアメリカからは、マレーがきていろいろ力をつくしました。

學問と宗教 このころに、西洋から、學問がつたはつたことは、わが國の學問の、盛んになるものになつたのです。文學や法律などに關するものから、醫學や農學に關する學問まで、あらゆる方面にわたつてゐました。

多くの外國の學者がきて、大學で教へましたので、わが國の學問もだんだん発達しました。また國學や漢學は、一時おとろへてゐましたが、これも新しく研究されるやうになりました。

佛教や神道のほかに、キリスト教も盛んになりました。

三 文化の動き

教育 政治や経済とならんで、文化もまた変わりました。江戸時代にも、オランダの本などによつて、西洋の學問や文化がつたはつてゐましたが、開國となつてからは、一そう盛んになりました。明治のはじめごろは、おもにアメリカやイギリスのものが、多くとり入れられ、つづいてフランス・ドイツのものがはいつてきました。

政府は教育のことに大そう力を入れました。明治五年には「學制」を定めて、小學・中學・大學などの學校の制度をたてました。教育の大ぜつなことをこまごまとさとし、國民が一人のこらず、教育をうけるやうにすめました。ことに、女子の教育のために女學校をおこしました。かうして、女性をいやしめる昔からのならはしが改まるやうになつてきました。教育もまた國民平等となつたのです。やがて東京には大學がた

た。おもにアメリカから宣教師がきて、その教へをすすめ、教會堂なども方にできました。わが國の人のうちにも、熱心な人があらはれました。新島襄はその一人であります。

文明開化 新しい文化が発達するにつれて、人人の風俗もしぜんに変つてきました。刀をさす風がなくなり、男は散髪となり、また洋服をきるなど、世のはけしいうつり変りが見られます。新聞や雑誌が新しくでき、電燈やガス燈がついて、西洋館が建ちました。食べ物も、これまで食べなかつた牛肉が喜ばれ、西洋料理屋ができるやうになりました。これらの風俗をそのころ文明開化といつてゐました。

四 立憲の政治

憲法の制定 藩をやめてから、政府はどんどん新しい政治を進めて行きました。ところが、この政府のやり方に、不平をいだくものがありました。そのため

佐賀の乱や、西南の役などがおこりました。ことに明治十年（西暦一八七七年）の西南の役は、一ばん大きなさざぎでした。これがをさまつてから、國內もだんだんしづかになりました。

五箇條の御誓文の中に、廣く會議をおこして、多くの人人がよいと思ふやうなことをしなければならぬと書いてあります。また智識を世界に求めよとも示されてゐます。世界の文明國では、憲法を定め、國會を開いて、國民が、政治にあづかるやうになつてゐます。そこで、わが國でも憲法をつくることになりました。

政府が憲法をつくらうとしてゐるとともに、國民のうちからも、板垣退助らがさきになつて、民主的な憲法をつくり、國會を開かなければならぬとの意見が盛んに出てきました。熱心のあまり、方方できわざまでおこりました。

明治八年には、元老院、地方官會議がまうけられ、

農商務・逓信の諸大臣をおきました。この時伊藤博文が、はじめて内閣總理大臣に任ぜられました。

憲法には、帝國議會のことが、くばしく定めてあります。そこで、これによつて、明治二十三年（西暦一八九〇年）、衆議院議員を選んで、その年の十一月に、第一回の帝國議會が開かれました。これから政府は、議會とともに政治をすることになりました。江戸時代までは武家の政治であり、明治のはじめは役人の政治でありましたが、これから立憲の政治となつたのであります。また憲法のはかに、民法や商法などの、多くの法律もできました。

問題

- 一 五箇條の御誓文には、どんなことが示されてありますか。
- 二 都々京部から江戸になつたのは、なぜですか。

十一年には府縣會が開かれました。これらはみな國會を開くじゆんびになりました。十四年になつて、二十三年に、いよいよ國會を開くといふ勅諭が出ました。

憲法は、一ばん大ぜつな國のきまりで、國の成り立ちや、國民の權利・義務や、國會のことが定めてあります。わが國では、はじめてつくるのでから、そのしくみかきめることは、なかなかむづかしいことではありました。政府は伊藤博文をヨーロッパにつかはして、憲法のことを研究させました。そして伊藤らの骨折りで、二十一年になつて草案ができました。そこで明治二十二年（西暦一八八九年）二月十一日、紀元節の日に、盛大な儀式を行つて、大日本帝國憲法と皇室典範が公布されました。

内閣制度と帝國議會 これよりさき、明治十八年（西暦一八八五年）には、内閣の制度ができました。

大政大臣・左大臣・右大臣などをやめて、内閣總理大臣および外務・内務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・

三 なぜ、藩をやめなければならなかつたのですか。

四 つぎのことからについて、知つてゐることをいつてもらいなさい。

一世一元 四民平等 文明開化

五 農村が明治の代になつて、どう變つてきたかを、しらべてみませう。

六 明治の代になつて、國民の生活では、どんなことが便利になりましたか。またどんな産業が盛んになりましたか。

七 政府や國民は、なぜ憲法や國會をつくらうとしたのですか。

第十一 世界と日本

一 明治の外交

世界の波は、あとからあとからおしよせてきます。わが國は、もはや昔のやうな離れ島ではなくなつて、世界の中の日本になりました。

清國と朝鮮 わが國が國を開くことになつてから、東洋と歐米との間がらは、いよいよしたしくなりました。このころ清國や、わが國と條約を結んでゐたのは、アメリカ・イギリス・ロシア・フランス・ドイツなどの國國でありました。

外交を開くにあたつて、これをうまく進めて行くには、いろいろむづかしい問題がありました。まづ日本の國境をはつきりきめるために、諸外國と相談して、北は北海道と千島までとし、南は小笠原島と琉球まで

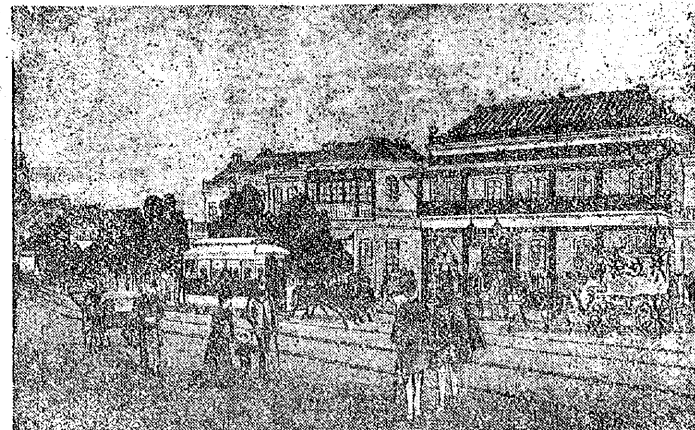
としました。

清國や朝鮮とは、遠い昔から交はりがありました。政府は歐米の各國と條約を結んだので、これらの國國とも條約を結んで、したしくしたいと思ひました。まづ朝鮮に使ひつかはして、相談をはじめましたが、なかなかまとまりませんでした。

そのころ、政府の中には、朝鮮のことが、もとなつて、内治を、主とする意見と、外交を、とのへようといふ意見があつて、議論が二つに分れました。そのうち、内治を主とする意見が勝つて、西郷隆盛らが、役をやめるやうなさわざがあつたので、長びきました。やうやく、明治九年になつて、條約を結びました。かうして、國交が改まり、貿易がはじまるやうになりました。



文明開化(一)



文明開化(二)

つぎに清國にも使ひを出して相談を重ね、明治四年に條約を結びました。そのうち臺灣の問題で、日清兩國の間にいざこざがございましたが、わが全權代理大臣大久保利通が清國に渡つて、李鴻章と相談の結果、おだやかにおさまりました。

條約の改正 歐米の諸國とは、安政年間開國の時に、條約を結びましたが、そのうち、これを改める必要がございました。政府は明治四年に、岩倉具視らがアメリカに渡つた時から、その相談をはじめました。それから引きつづき相談を重ねましたが、いろいろめんどろなことがあつたので、なかなかまとまりませんでした。

條約を改めるには、まづ、國內をととのへ、法律をつくり、また國民の風俗を改めなければなりません。そこで政府は、相談を進めるかたはら、急いで法律をつくつたり、西洋風の風俗をとり入れたりしました。西洋風の夜會などが流行したのも、このころの

た。これを天津條約といひます。これではらく平和がなもたれました。

ところが明治二十七年になつて、朝鮮にまたも東學黨のさわぎがございました。そこでわが國と清國は、いろいろ相談をしましたが、つひに兩國の意見があはず、戦ひがはじまることになりました。

明治二十七年（西曆一八九四年）八月に、宣戰の詔書が下り、廣島に大本營がおかれしました。陸軍は朝鮮の平壤をおとし、海軍は東海で清國の北洋艦隊をやぶりました。それから旅順・威海衛をおとし、遼東半島を占領しました。

そこで、清國は、二十八年、李鴻章をつかばして和かばかり、伊藤博文・陸奥宗光と、下關で講和の會議を開き、四月に、和議が成り立ちました。その結果、清國は、朝鮮の獨立をのみとめること、臺灣・澎湖島及び遼東半島をわが國にゆづること、償金二億兩を出すことなどがきまりました。これが下關條約であります。

ことです。

このやうに政府は苦心に苦心を重ねた末、明治二十七年（西曆一八九四年）、外務大臣陸奥宗光の力で、まづイギリスとの相談に成功しました。そこでそのほかの國國とも、改正の相談が成り立つて、やうやくこのむづかしい仕事を成しとげました。この時の改正では、裁判上の事がただけが改まり、そのうち明治四十四年（西曆一九一一年）になつて、貿易上の事がらも改められ、條約の上で、わが國と歐米諸國とはすっかり平等になりました。

二 東洋のもつれ

日清戦役 明治十五年（西曆一八八二年）朝鮮の京城で、とつぜんさわぎがござり、引きつづいて十七年にまたござりました。

わが國は、伊藤博文らを天津につかはし、李鴻章と相談をさせて、朝鮮のためにいろいろ約束をしました。

す。

ところが、この條約について、ロシア・フランス・ドイツの三國は、日本が遼東半島を持つことは、東洋永遠の平和のためによくないから、清國にかへすやうにといつてきました。政府はいろいろ相談をした上、このすすめに従ふことになりました。

明治三十三年は、西曆千九百年にあたります。十九世紀を送つて、二十世紀を迎へるのであります。

日清戦役によつて、東洋のありさまは、しだいに変わりました。このころには各國が東洋に集つてきてゐましたので、外交上こみ入つたものが、だんだんおこつてきました。この年、北京（今の北平）で北清事變がござりましたが、これは各國の兵が力を合せてしづめました。

日英同盟 このころに、日本とイギリスとが同盟しようといふ相談が持ちあがりました。この同盟はイギリスにもつがふがよいし、わが國にとつては力強い味

方ができるわけでありませう。わが國は喜んでこれに應じ、明治三十五年（西曆一九〇二年）一月に、同盟が成り立ちました。

日露戦役 北清事変が終つても、ロシアは、滿洲から、兵をひきあげません。清國は、ロシアと、いくたびも相談をしましたが、なかなかまとまりませんでした。

そのうへ、ロシアは、朝鮮の近くまで、手をのばすやうになつたので、わが國も、ロシアと話しあひを重ねました。しがし意見があはず、つひに、明治三十七年（西曆一九〇四年）二月、ロシアとの戦ひになりました。

わが陸軍は、朝鮮と遼東半島から上陸し、戦場は朝鮮から滿洲にうつり、遼陽・沙河で、はげしい戦ひがありました。旅順にはロシアが堅固な陣地をきづいてゐました。やうやくこれをおとしいれ、三十八年三月には、奉天を占領しました。一方ロシアは、本國から

バルチック艦隊を東洋にさし向けてゐました。五月にわが聯合艦隊は、對馬海峡に、これをむかへてやぶりました。これが日本海海戦であります。

六月に、アメリカの大統領ルーズベルトは、世界平和のために、兩國の間に立つて講和をすすめました。

八月にはアメリカのボーツマスで、講和會議が開かれ、日本から小村善太郎・高平小五郎らをつかはし、ロシアからはツシツテ・ローゼンらがきて、講和條約が結ばれました。

その結果、ロシアと日本は、滿洲から、兵をひきあげ、ロシアは、長春・旅順間の鐵道、四東州の租借権、および樺太の南半分を、日本にゆづることになりました。また清國が、滿洲の發展をはかるとき、兩國とも、それに目出しをしないことにきまりました。

かうして、長い同きわがしかつた東洋も、この戦争によつて、やうやく平和にむかふやうになりました。やがて、日本とロシアとの間には、日露協約が結ば

れ、ふたたびしたしい間がらとなりました。また韓國

（朝鮮）とは日韓協約を結び、そののち、さらに相談をした結果、明治四十三年（西曆一九一〇年）、わが國が韓國を併合しました。

三 産業の発達

資本と機械 わが國の産業は、昔から農業が中心でありました。明治の代となつてからも、やはり農業は、産業のうちでは、おもなものでありましたが、このほかに新しく紡績業・製糸業・織物業などの工業がむこつてきました。

織物を織るにも、昔は手織でありましたが、これを機械でつくるやうになつたのです。これらの新しい工業では、機械の力によつて、一時にたくさん品物をつくりだします。これには多くの人手や、もてがかかりませう。このもてを資本といひます。これからは、この資本が中心になつて、経済をすすめて行くのであり

ます。

機械の力によつて世の中は大そう変りました。工業の発達には、國を富まし、文化を進めるもてで、わが國の産業は、この機械を用ひるやうになつて、目だつて発達しました。

工業は、日清戦役のうちに、ますます盛んになつて、清國や朝鮮へ製品を賣り出し、貿易もまた勢ひを得ました。

工業の発達につれて、製鉄所がたてられました。この鉄で、機械をつくり、さらに、汽船・機關車などをつくるやうになります。また、工場の動力に、電力が用ひられるなど、工業のしかけはますます大きくになりました。

工業の発達によつて、一方には、農業がしだいに、昔のやうな力を失ひ、工業が、経済の中心をしめるやうになつてきました。このころから、財閥が、だんだんむこつて、わが國の経済を、支配するやうになりました。

した。

鉄道の發達 鐵道は、明治五年に、はじめて開通してから、年年各地にしかれて行きました。そのうちには、民間でできたものが多かったのですが、これらを國のものにする意見がおこり、明治十一年（西暦一九〇八年）に、今のやうに、大部分が官營となりました。かうした鐵道の發達は産業の上にも大そう役立ちました。

四 明治の文化

教育と學問 明治二十三年（西暦一八九〇年）十月、天皇は教育に関する勅語をお下しになりました。

明治のはじめごろは、盛んに、西洋の文化や、風俗をとり入れることがはまりました。しかし、一方には、また、わが國の、昔のことを考へる風がおこつてきて、わが文學や歴史が、新しく研究されるやうになりました。

も尾崎紅葉・幸田露伴・坪内逍遙・森鷗外・落合直文
正岡子規・島崎藤村らが有名です。また外國の文學がいろいろ翻譯されて、わが國の文學の進歩に大そう役立ちました。

美術は、一時大そうおとろへてゐました。ソエノロサや岡倉天心らが、わが國の美術のりつぱなことを熱心になつたので、だんだん盛んになりました。そして狩野芳崖・橋本竹雪のやうなすぐれた人があらはれました。また西洋画では黒田清輝らが有名です。

四 明治の文化

一 外交のことで、政府はどんな苦心をしましたか。

二 わが國の鐵道の發達についてしらべてみませう。

明治十九年（西暦一八八六年）に、帝國大學をはじめ、學校の制度がととのひました。國民は、すすんで學校に入るやうになつたので、生徒の數も年ごとにふえ、教育は一そう行きたるやうになりました。

學問は、明治のはじめごろにくらべると、一だんと發達しました。帝國大學のできたことも、研究をすすめる上に、大そうつがふがよかつたのです。これまでは、おもに西洋の學問を學んでゐましたが、だんだんわが國でも新しい研究が進み、いろいろの發明や発見があらはれるやうになりました。大森房吉の地震の研究や、北里柴三郎の結核やペストの研究が、有名であります。

そのほか、天文學・物理學・地質學・動物學・植物學などにも、すぐれた學者が出ました。

文學と美術 教育が進むにつれて、文學もまた盛んになり、小説・戯曲・和歌・俳句・新體詩など、それぞれの方面で、すぐれた人があらはれました。なかで

三 機械の發明が、どれだけ世界の文化を進めたか、よく考へてみませう。

四 この時代にどんな工業が盛んになりましたか。

五 教育をひろめるために、政府はどんな工夫をしましたか。

六 わが國で、發明・発見されたものには、どんなものがあるかしらべてみませう。

七 つぎの人人は、どんなことをしたので有名ですか。

福澤諭吉

新島襄

北里柴三郎

坪内逍遙

第十二大 正 昭和へ

一 歐洲大戰と日本

明治四十五年（西暦一九一二年）七月、天皇は御病氣におなりになりました。國民は、みな早くおなほりになるやうにいのりましたが、そのかひもなく、その月の三十日に、御年六十一歳でおかくれになりました。明治天皇と申し上げます。皇太子嘉仁親王が位をおつぎになつて、年号が大正と改まりました。

歐洲六戰 このころから、世界のやうすは、だんだんむづかしくなつてきて、つひに歐洲大戰がおこりました。大正三年（西暦一九一四年）の七月、バルカン半島で、オーストリアの皇太子が、セルビアの一青年に殺されました。これからオーストリアとセルビアとの間に、戦ひがはじまり、それがひろがつて、ドイツ

はロシアに宣戦し、つづいてイギリス・フランスもドイツと戦ひをはじめました。そしてヨーロッパの諸國は、ドイツとオーストリアを中心とする同盟國と、イギリス・フランス・ロシアなどの聯合國の、二つに分れることになりました。そのうち、アメリカ・イタリヤ・中華民国（明治四十五年、清國がほろびて中華民国がおこりました。）も、聯合國に加はつたので、世界の大戦争となりました。わが國は、日英同盟にしたがつて、翌八月、ドイツにむかつて、宣戦を布告しました。

この大戰は、四年あまりつづいて、聯合軍の勝利で終りました。大正七年（西暦一九一八年）十一月、休戦となり、翌八年、フランスのパリで講和會議が開かれ、わが國からは、西園寺公望・牧野伸顯らが、全權

委員としてつかはされました。アメリカの大統領タフ・ルソン、フランスの首相クレマンソーや、イギリスの首相ロイド・ジョージらが出席し、集まつた國が二十八箇國におよぶ大きな會議でありました。この會議でできたのが、ベルサイユ條約であります。

わが國は、膠州灣と、山東省にあつたドイツのすべての權益をゆづりうけ、また赤道以北の旧ドイツ領の南洋諸島を治めることになりました。

歐洲大戰は、今までにない大きな戦争で、そのために、敵も味方も、大そう損害を受けました。各國は、平和をのぞみ、できるだけ戦争をさけたいと熱心に考へました。講和會議の目的も、この世界平和の建設にあつたので、ドイツをきびしくすることになつたのです。この時ウィルソンが、國際聯盟をつくることをはかり、各國が賛成して、わが國も、これに加はりました。

ワシントン會議 この大戰で、世界のやうすは、す

つかり変りました。ことにロシア・ドイツ・イタリヤなどには大きな変化がありました。東洋も全く平和になつたわけではありません。世界平和のためには、各國がたがひに軍備を縮小するよりほかはないといふので、アメリカが主となつて、ワシントンで國際會議が開かれました。わが國もこれに加はりしました。大正十年（西暦一九二一年）のことです。

この會議の相談では、まづ海軍の縮小がきめられ、英・米・日の主力艦の割合を、五・五・三とし、また太平洋の島島の軍備を、この上ふやさないことに約束がきまりました。

ワシントン會議には、このほか極東問題・太平洋問題の相談もありました。歐米諸國は、政治上、貿易上、東洋に深い關係をもち、ことに支那の問題は、各國が大そう注意してゐます。わが國にとつても支那の問題は大せつです。そこで、この會議で、各國は中華民國の領土を重んじ、中華民國との間に、平等の貿易

ができることを申しあはせ、また太平洋の島嶼では、各國がたがひに權利を認めあひ、もしも問題がおこつた時には、たがひに相談をするやうに、約束ができました。これと同時に、日英同盟は十分その目的を達したので、やめることになりました。

二 太平洋戦争

大正十五年（西曆一九二六年）十二月二十五日、天皇がおかくれになり、今上天皇が位におつきになつて、年号が昭和と改まりました。

満洲事変 歐洲大戰がすんでから、しばらく平和がつづいてゐましたが、このころから、わが國內のありさまが、だんだん變つて來ました。ことに軍部の力が政治や經濟の上になでびこつてきて、世間がさわがしくなり、五・一五事件や二・二六事件のやうな血なまぐさいことがつづきました。そしてとうとう満洲のことから、中華民國との間にめんだうなもつれができ

て、東洋の平和がみだれることになりました。

昭和六年（西曆一九三一年）九月、満洲の奉天の近くで、南滿洲鐵道が、ふいに、ばくはされました。それをきっかけに、満洲にゐたわが軍が、奉天を攻めてこれを占領し、つづいて各地を攻撃しました。これが満洲事変のおこりであります。

中華民國は、この事変について、日本がさきに兵を動かしたことは、東洋の平和をみだすものであるから、すぐに日本の軍隊を引きあげてもらひたい、といつて、これを國際聯盟にうつたへ、そのかいけつをたのみました。

事変がおこると一しよに、日本の軍部によつて、奉天を中心に、新しい政府ができました。この政府は、もと清國の宣統帝であつた溥儀を執政にして、新しく満洲國を建てました。わが國は、すぐにこれを獨立國として取りあつかひ、同盟を結びました。

一方、國際聯盟では、中華民國のうつたへをきい

て、まづこの事變の真相をよくしらべることにしました。その結果は、日本のやりかたは正しくない、満洲國も國際法のおきてにそむいてゐる、といふことでありました。聯盟がこの報告を聞き入れたので、それによつて、不服であつたわが國は、とうとう聯盟からぬけてしまひました。

この間にわが軍はどんどん攻撃を進めて、北支まで攻め入りました。中華民國の軍もこれをふせぎましたが、北平の近くまでわが軍がきたので、戦ひを中止する相談がまとまりました。

支那事変 この満洲事変から六年たつたのちに、支那事変がおこりました。昭和十二年（西曆一九三七年）七月、北平の近くの蘆溝橋で、とつぜん日支兩軍の間に戦ひがはじまりました。わが軍はすぐに兵を進めて北平を占領しました。それから青島・上海をおとし、いれ、中華民國の都南京をあらし、廣東・武昌・漢口などの重要なところを占領しました。蒋介石は重慶

にうつつて、これを根據地としました。かうしてわが軍の攻撃はだんだんひろまつて、事變はつひに長期戦となりました。

支那事変がこのやうにひろがつてしまつたことは、日支兩國の間だけでなく、米・英をはじめとして、東洋と關係の深い國にとつてこまることがたくさんあります。時の政府も、はじめはこの事變をできるだけ早くまとめて、支那と仲よくして行きたいと、力をつくしましたが、戦ひはひろがつて、手がつけられないやうになりました。軍部がどんどん戦ひを進めたので、坂から石がころがるやうに、大へんな勢ひになつてしまひました。かうなつたので、政府も、この戦ひは、東亞に新秩序をつくるのが目的であると、國の内外に宣言しました。また、中華民國の政府を相手にしないともいひました。かうなると、中華民國の問題について、米・英とは明らかに意見があふことになりました。

一方、ヨーロッパのありさまを見ると、歐洲大戰のも、二十年の間に、大そうやうすが変りました。ことに、ドイツはヒットラーが總統になつて、ナチスの政府をはじめてゐます。軍備を盛んにして、ポーランドに攻め入り、つひに、英・佛兩國と戦ひをはじめました。

三國同盟 わが國とドイツとは、昭和十一年に同盟を結びましたが、十五年（西暦一九四〇年）九月には、イタリヤを加へて、日・獨・伊三國同盟ができました。そこで日・獨・伊の三國は、米・英や、ソ聯・中華民國と対立することになりました。わが國と米・英との間も大そうあぶないことになりました。かうして東と西から、世界の全体が戦ひにまきこまれる勢ひになつてきました。

太平洋戦争 このころ、わが國では、平和をとへる人人が力を失ひ、政府は、戦争のために、國內をかためる必要から、政治・経済・文化をすべてたてなほ

ました。

このころまで、わが軍はいきほひにまかせて、攻撃を進めてゐましたが、四、五月ごろから米・英聯合軍がもりかへてきました。珊瑚海や、ミッドウエー、ガダルカナルの海戦で、わが海軍は大きなたでをうけ、それ以上進むことができなくなりました。聯合軍は中部太平洋に進み、マーシャル群島・トラック島を攻撃し、太平洋の島島がつきつぎにその手にうつりました。それからサイパン島が占領され、マニラがとりかへされました。最後に硫黄島や沖縄が占領されたので、わが國は全く聯合軍のためにとりかこまれてしまひました。わが本土は昭和十九年（西暦一九四四年）の秋から空襲をうけ、東京・名古屋・大阪などの都市をはじめ、各地が大そう損害をうけました。聯合軍は最後に本土の上陸作戦を計画したので、わが國も、本土決戦の覺悟をきめました。

二十年（西暦一九四五年）の四月には、ヨーロッパ

して、與國一致をはかる新体制をつくらうとしました。

また一方では、アメリカと、いろいろ相談をしましたが、この相談が、すすむにつれて、政府と軍部との意見があらはなくなり、そのために昭和十六年（西暦一九四一年）十月、近衛文相は内閣総理大臣をやめなければならなくなりました。そして陸軍大臣東條英機がこれに代りました。

かうしてアメリカとの相談もつひに行きづまつてしまひました。十二月八日の朝、わが國は、ハワイの真珠灣をとげん攻撃してから、米・英兩國に宣戦を布告しました。

つづいてわが軍は、マレー半島やフィリピンに上陸し、香港をおとし、南太平洋方面をおさへました。翌十七年（西暦一九四二年）一月には、マニラをとり、シンガポールやラングーンを占領して、南洋の島島を手に入れ、さらに遠く濠洲にまで、攻撃を加へ

の戦ひも、ドイツがやぶれて終りました。聯合軍は七月に、ボツダムで日本の處理案を定め、わが國に降服をすすめました。八月になつて廣島に原子爆弾がおとされ、またソ聯からも攻められるやうになつたので、天皇はボツダム宣言を受け入れるとの思召しで、八月十五日、大詔をお下しになつた上、さらに政府と大本營に降伏を命じ、また國民に武器をすてて、てむかひをやめるやうに命令をお出しになりました。

わが國はまけました。國民は長い間の戦争で大へな苦しみをしました。軍部が國民をおさへて、無理な戦争をしたことが、このふしあはせをおこしたのであります。

マッカーサー元帥の下に、聯合軍はただちに日本を占領しました。この占領は、日本の秩序をたて、軍部を倒し、軍國主義の思想をすつかりのぞいて、國民に自由をあたへ、民主主義によつて、日本をたてなほすことがその目的であります。そのために、憲法の改正

をはじめ、いろいろの制度の改革や、また長い間、日本の経済を支配してゐた財閥をこはして、経済の民主化をはかり、また信仰を自由にしたりして、民主主義の國家をたててゐることをのぞんでゐます。

政府も國民も、この聯合軍司令部の占領の目的に、よく力をあはせて、平和な日本をきづき上げることにばげんでゐます。

天皇は昭和二十一年（西暦一九四六年）の一月に、詔書をお下しになつて、日本國民のむかふべき道をおさとしになりました。そのうちには、まづ、明治天皇のお定めになつた五箇條の御誓文をおあげになつて、つぎのやうにおはせられてゐます。

須^スク此^{コノ}御^{ミコトノ}趣^{ソツ}旨^{ミツ}ニ則^{モツ}リ、舊^{キウ}來^{ライ}ノ陋^{ロウ}習^{シツ}ヲ去^サリ、民意^{イミ}ヲ暢^{チヤウ}達^{ダツ}シ、官^{カン}民^{ミン}舉^{キョ}グテ平^{ヘイ}和^ワ主^{シュ}義^ギニ徹^{テツ}シ、教^{キョウ}養^{ヤウ}豊^{ユウ}カニ文化^{ブンカ}ヲ築^{キズ}キ、以^{モツテ}テ民^{ミン}生^{セイ}ノ向^{ムカフ}上^{カミ}ヲ闢^{ヒラ}キ、新^{シン}日^{ニッ}本^{ポン}ヲ建^{ケン}設^{セツ}

スベシ

また

三 つぎのことがらについて、知つてゐることをいつてごらん
なさい。

國際聯盟

ワシントン會議

ナチス

ボツダム宣言

四 平和な日本をつくるためには、私たちはどんな心がけをもたなければならぬでせうか。

五 聯合軍は、わが國のために、どんなことをしてゐますか。

六 歴史のべんきやうは、どんな風にしたらよいでせうか。わが國の歴史を、はじめからよく考へなほして、まとめてみませう。

朕^{ミコトノ}ハ爾^ニ等^ノ國民^トト共^ニ在^リリ。常^ニニ利^ハ害^ヲヲ同^シジシ、休^ム戚^ヲヲ分^ケタント欲^スス。朕^{ミコトノ}ト爾^ニ等^ノ國民^トノ間^ノノ紐^ヲ帶^ハハ、終^ニ始^ニ相^シ互^ニノ信^ヲ頼^リト敬^ミ愛^ストニ依^リリテ結^スバレ、單^ニナル神^ヲ話^ヲト傳^ヘ説^クトニ依^リリテ生^ズゼルモノニ非^ズ。天^ノ皇^ヲ以^テテ現^レ御^ス神^トシ、且^ニ日^本國^ノ民^ヲ以^テテ他^ノ民^族ニ優^レ越^スセル民族^ニシテ、延^テテ世界^ヲ支^シ配^ススベキ運^命ヲ有^スストノ架^ス空^{ナル}觀^念ニ基^キクモノニ非^ズ。

新しい政治がはじまりました。今度こそ、ほんたうに、國民が力をあはせて、日本を民主主義の國にする
ときであります。

問題

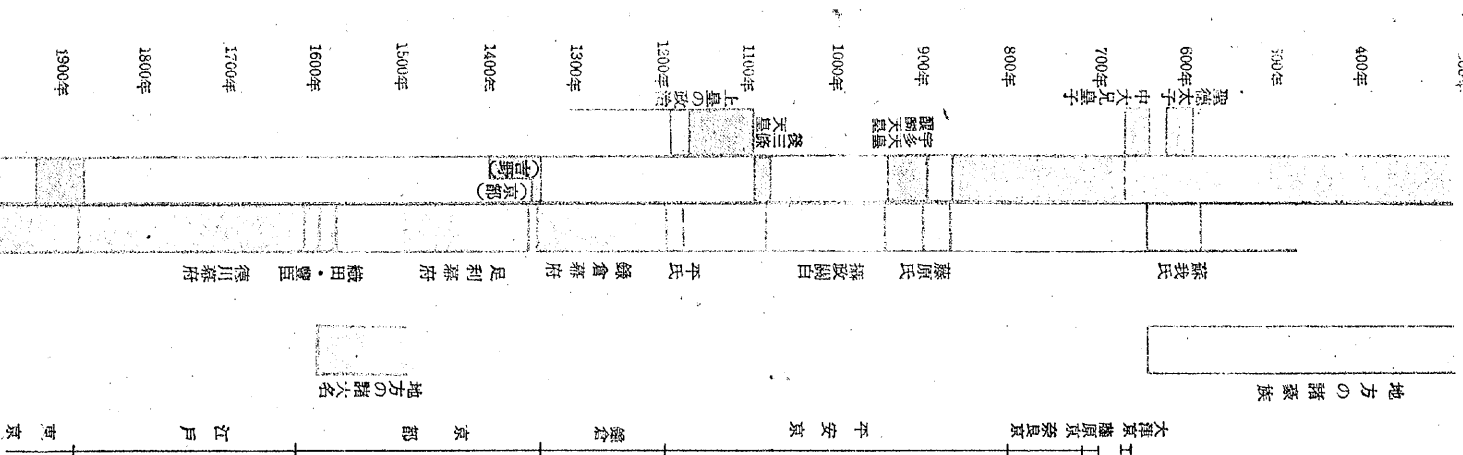
一 歐洲大戰ののち、世界の平和のために、どんな工夫がされ
ましたか。

二 日清戦争から、今日までに、わが國と中華民國との間にど
んなことがありましたか。

[illegible]

年表

政権の移りかはり



継続のこゝは実権を示す
うすいところは機勢弱いことを示す

おもな事から

391	朝鮮に兵を送る
538	佛敎つたはる
593	聖徳太子稱政となる
645	大化の改新はじまる
701	大津律令かてきる
710	奈良を都とする
741	鑑分等を起る
794	平安京を都とする
801	坂上田村麿呂純茂をしづめる
858	藤原氏稱政となる
894	遣唐使をとりやめる
901	菅原道真の大学府にうつされる
1063	平家隆の鳳凰がてきる
1086	上皇の政治はじまる
1167	平家隆の鳳凰がてきる
1187	平家隆の鳳凰がてきる
1192	源頼朝の政治を閉く
1221	承久の變
1274	空気の役
1281	弘安の役
1333	鎌倉幕府はらびる
1334	建武の中興
1392	後醍醐天皇京都におかへりになる
1397	金閣がてきる
1439	この頃足利家の政治が再開された
1467	應仁の亂はじまる
1477	應仁の亂はじまる
1543	ポルトガル人種子島に来る
1549	クリスチ敎つたはる
1573	室町幕府はらびる
1582	徳川の戦
1600	徳川家康幕府を開く
1639	寛永の鎖国令
1684	幕府の政治を用ふ
1716	吉宗將軍となる
1727	この頃さつまいも全國にひかる
1774	摩訶新説がてきる
1808	開港場の開港
1853	ペリヤル
1867	明治の政治
1868	明治の政治
1894	日清戦争はじまる
1931	第二次大戦はじまる
1939	第二次大戦はじまる
1945	第二次大戦はじまる

題目 朝鮮 支那 西洋

日本のおけぼの	開けゆく日本	平安京の時代	武家政治	鎌倉から室町へ	江戸と大政	朝鮮
高麗新羅百濟	新羅	高麗	百濟	新羅	高麗	百濟
晉	南北朝	隋	唐	五代	宋	元
蒙古	海	蒙古	海	蒙古	海	蒙古
476	西ローマ帝國はらびる					
871	英王アルフレッドの死					
915	カンヅラツタ大皇帝の死					
1215	英王大憲章がてきる					
1219	オックスフォード大講堂の落成					
1271	マルコ・ポーロ東証へいたる					
1453	コンスタンティノポリスの陥落					
1492	コロンブスの発見					
1498	ポルトガル人インドへ					
1517	ルネサンスの改革					
1530	コペルニクス天動説					
1538	エリザベス女王即位					
1600	英蘭東印度会社をたてる					
1649	英蘭共和制となる					
1660	英王政復讐					
1661	ポルトガル船の発見					
1687	ニュートンの重力法則の発見					
1707	大ブリテンの成立					
1769	ワシントン大憲章の発見					
1776	アメリカの独立宣言					
1789	フランス革命の発見					
1802	汽車の発見					
1853	ペリヤルの発見					
1863	無線電信の発見					
1897	無線電信の発見					
1919	ワシントン會議					

105032-1-22

昭和二十一年八月十六日 翻寫印刷
昭和二十一年九月五日 翻寫發行
【昭和二十一年八月十六日文部省検査済】

くにあゆみ 下

定價金壹圓七拾錢

著作權所有 著作人 文 部 省

東京都小石川區久堅町一〇八番地

翻寫發行 日本書籍株式會社

代表者 大 橋 進 一

東京都小石川區久堅町一〇八番地

印刷所 日本書籍株式會社

Approved by Ministry
of Education
(Dec. Aug. 1, 1946.)

發行所 東京都小石川區久堅町一〇八番地
日本書籍株式會社

